



【周期・振幅の読取り方】

オシロスコープは、電圧の時間変化を測定する測定器で、横軸を時間、縦軸を電圧としてグラフを描画します。上図のような波形が表示された場合、信号の周期は、アの部分が4目盛りであることと、1目盛りあたり $0.5\text{ms}/\text{div}$ (div は「1目盛りあたり」の意味) の設定になっていることから、 $4\text{div} \times 0.5\text{ms}/\text{div} = 2.0\text{ms}$ と分かります。また、縦軸1目盛りあたりの電圧は、表示画面左横にある3つのスイッチのうち、上2つのスイッチで設定します。2つのスイッチの設定がそれぞれ 1V 、 $\times 2$ となっている場合、1目盛りあたりの電圧は $1\text{V} \times 2 = 2\text{V}/\text{div}$ となります。したがって、上図の場合、イの部分が4目盛りであるので、 $4\text{div} \times 2\text{V}/\text{div} = 8\text{Vp-p}$ ということが分かります。

【波形の保存方法】

波形を表示している状態で OK ボタンを押して HOLD 状態にします。この状態で MODE ボタンを押すと波形を保存するモードになりますので、+、-キーで波形を保存するメモリー番号（1～6）を選択し、OK ボタンを押せば保存が実行されます。中止したい場合は MODE ボタンを押します。

【保存した波形の呼出し】

OK ボタンを押して HOLD モードにし、SLOPE ボタンを押します。保存のときと同様に+、-ボタンで呼び出したいメモリー番号を選択し、OK ボタンを押せば呼び出しが実行されます。中止したい場合は SLOPE ボタンを押します。

【パソコンへの波形転送】

表示されている画面パソコンに転送するためには、MAX232 などを用いて本キットの出力信号（TTL レベル）を RS-232 規格のレベルに変換する必要があります。

接続は J5 コネクタの 13 ピンが Rx、15 ピンが Tx です。通信ソフトは Xmodem プロトコルに対応したターミナルソフト（ハイパーターミナルなど）を用います。

通信設定は、34800bps、データ 8 ビット、パリティ無し、フロー制御無しです。ターミナルソフトをファイル受信待機状態にし、本キットに転送したい波形を表示させた状態で HOLD モードにして LEVEL ボタンを押すと転送モードになり、OK ボタンを押すと転送が開始されます。中止したい場合は LEVEL ボタンを押します。